

昭和43年～平成4年まで使われていた校舎です。50～70代の方には懐かしの校舎ではないでしょうか。



西春別中 温故知新

西春別中学校長 綾野 正巳

昭和63年、西春別中学校生徒会機関誌「草原」が創刊されました。発刊にあたっての巻頭言で、第10代鈴木馨校長が、【生徒会が中心となって、自分たちの手で計画し、実践してきた1年間の行事を記録した本誌は、まさに西春別中の歴史であり、君たちにとっては自分史を飾る尊い人生の記録でもあります。】と記述しています。昭和最後の年に始まった「草原」は、今日まで引き継がれて来ました。

ちなみに、鈴木馨校長は、西春別中学校で勤務された後、平成2年に羅臼の春松小学校へ赴任されました。その次の年、春松小学校で私の教員生活がスタートしました。鈴木校長は、お酒が入ってくると、前任校である西春別中の生徒がいかに優秀だったかを楽しそうに、自慢げに話していたことを覚えています。

今年の生徒会も全校キャンプやICTを活用したレクリエーションを企画するなど、よき伝統は確実に引き継がれています。

過去にも、西春別中ではたくさんの素晴らしい実践があったようです。

50周年記念誌「飛翔」 中村昭紀氏 寄稿文より抜粋（昭和63年～平成初期）
委員会活動が盛んで、わけでも放送委員会の活動がユニークでした。脚本の創作に始まり、**自作自演のドラマを校内放送**で流していました。学校を舞台にした怪談ものがやたらと多かったが効果音なども使って、なかなか楽しいものでした。

自然関係のビデオ作成にも取り組みました。「さよなら標津線」では、何人かで実際に最終の標津線に乗り、車内や沿線の風景をビデオ放送で流しました。

「西別川の源流を訪ねて」では、いづみ橋から虹別川の上流、摩周湖までたどって、川の源流を訪ねました。途中で水の透明度なども調べながらビデオに納めて放送しました。

お昼の放送では**全校生徒が一人ずつ順番に歌**を歌いました。中には歌の嫌いな人もいたようですが、「与作」などもあって、皆の笑いを誘いました。

クラブ活動や自由研究では「**幻の本久町**」と題して、かつての軍馬補充部時代の町並みを調べて町内研究発表会や研究会で発表しました。

驚きました！今、日本の教育で求められている「探求学習」を30年以上前の西春別中の生徒が実践していたのです。「総合的な学習の時間」がまだ設置されていない、ネットやスマホがない時代です。自分の「足」で情報を集め、自分の「目」で本物を見て、自分で見つけた課題を追究していたのでしょう。

「探求学習」とは、生徒が自ら問いを立て、情報を収集・分析し、解決に向かう学習活動のことです。具体的には日常生活や社会の問題を探求し、真の姿を見極めることを目指しています。また、学習者が自らの経験を通じて深い理解を得ることを目的としています。

過去の西春別中の生徒達にその姿を感じることができます。先輩達に負けないよう、2学期も「**つながる**」「**つなげる**」「**小さな一歩**」を合言葉に、教育内容のさらなる向上に取り組んでいきます。